

# 令和7年度第1回地域医療構想調整会議 議事録

日時：令和7年8月6日（水）

13:30～15:00

会場：真庭地域事務所 3階大会議室

（ウェブ会議システム Zoom 併用開催）

## 1 開会

（真庭保健所長挨拶）

今回の会議では、真庭圏域における2025年の地域医療構想というものを一つの形として確定したいと考えており、本日取り扱う内容は2025年の地域医療構想で調整が必要とされていること、つまり入院医療提供体制に関してのみを取り上げたい。

節目となる2025年の地域医療構想に関し、今日ここで真庭地域の形を固めていきたいと考えているので、よろしく願う。

## 2 議題（議事進行：金田議長）

### （1）2025年の地域医療構想について（真庭保健所長から資料に従って説明）

真庭圏域における医療需要に対して、真庭地域で提供できる医療体制がどのようになっているのか、その需要と提供のバランスがどうなのか、管内でどれだけ医療提供が充足できているのか、そして、もし十分その需要に対して提供できていない場合は、その部分をどのようにしていくのか、つまり、他圏域の医療機関と連携して、そちらの方に医療の提供をお願いするというようなことをしなければならない。

その場合、「どのような疾患を何例ぐらい、入院患者としてよその地域にお願いしなければならないのか」というところまで具体的に提示しなければ、こういった調整は具体的にはできない。只今から、真庭圏域の入院の医療需要とそれに対する実際の医療提供の実績がどうであるか、データを分析したものをお示しするのでご覧いただきたい。

・ 資料7ページ：今回、2025年の地域医療構想の協議の対象とするのは「入院医療」であり、その入院の機能を4つ（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）に分ける。このうち、高度急性期については真庭圏域に該当機関がないため、残りの3つ、急性期、回復期、慢性期についての入院医療について、今回は検討していただくことになる。

<急性期について>

・ 資料8ページ：急性期で代表的なものの一つが「手術」。手術がどのように行われているか、グラフにして可視化、見える化した。

各領域（泌尿器科、産婦人科、皮膚科、整形外科など）に分けて、それぞれの領域に2本の柱（棒グラフ）が立っている。右の柱は、地域住民の性別・年齢構成からしてこの真庭地域に発生するであろう手術、術式別の症例数を推計したものである。そして、すぐ隣の左の柱は、実際にこの真庭地域内で提供された手術症例の実績値である。

この手術症例数の推計値と実績値の差分はどうなっているかという点、おそらく真庭圏域から外の医療機関に行って治療を受けたのではないかと推測される。例えば、腹部、消化器領域の差分、心・脈管系もほとんどがよその地域に行って手術を受けているというようにご覧いただければよい。ただし、ひとつの病院で症例数が10症例未満の場合は、このグラフにカウントされていないので、実際にはこれよりも実績値は多少増えるだろうと考えている。これが急性期入院治療の真庭地域の現状である。

- ・ 資料9ページ： 一方、岡山県全体で見ると、全県民から発生する手術症例数よりも実際に行っている手術症例が多い。これはおそらく県外から流入して手術を受けに来ているのではないかと推測される。
- ・ 資料10～11ページ： 真庭地域の各領域の手術症例数が今後どのように変化していくかという、人口減少に伴い右肩下がりに減少していく傾向が如実に示されている。
- ・ 資料12ページ： 一方、岡山市では、住民の年齢構成からすると、今後しばらくの間、産婦人科以外の領域で2030年ぐらいまでは手術症例数が増えていく。岡山市と真庭地域とでは、今後数十年にわたって随分と様子が違うことが推測される。岡山市では手術症例数は2030年から35年頃まで上昇してそれから緩やかな減少に入ると推測される。

<回復期について>

- ・ 資料13ページ： 入院回復期の代表的な医療提供は「入院リハビリ」である。例えば、一番ポピュラーな運動器リハに関し、真庭の現状は、右の柱（棒グラフ）の診療単位数の入院治療が発生するであろうけれども、実際に行われているのは、それよりもはるかに少ない単位数の運動器リハビリが入院で行われている。  
このほか、脳血管リハ（脳卒中の後のリハビリ）、がんの後のリハビリなど、いずれにおいても地域の住民から発生する医療需要よりも少ない量の医療提供（入院リハビリ提供）がなされていると考えられる。
- ・ 資料14ページ： 岡山県全体では、例えば、入院運動器リハに関しては、全住民から発生すると推計される量よりも実績値の方が上回っている。脳血管疾患のリハビリについては、推計と実績がほぼ同じか、少し実績の少ない状況である。実際は外来でのリハの実施単位数も考慮しなければならないので、ただ少ないということだけではないとは思いますが、入院リハビリにおいてはこのような傾向である。
- ・ 資料15～16ページ： 将来の需要の推計値について、真庭市では右肩下がりに入院リハビリの症例（単位数）は減少していく。新庄村も同様である。
- ・ 資料17ページ： 一方、岡山市の入院リハビリの需要は、今後も2050年に向けてハビリ単位数は増えていくと推計されている。

岡山県内の各地域によっても随分と様相が違っている。真庭地域で今後、入院医療についてどのような医療提供体制で臨むか、この後、各医療機関から発言願いたい。

## (2) 各医療機関から、今後の入院医療提供の方向性について

医療機関の経営に関する情報等を扱うため、真庭圏域地域医療構想調整会議設置要綱第6条第4項により、資料及び議事内容は非公開。

## (3) 意見交換

(議長) 先ほどの議事の中では、これから増床して今より実績を高めるように医療提供を増やしていくという方向性の方は誰もいないように感じた。今後も湯原、勝山、落合地区でそれぞれの病院がそれぞれの領域での連携をしていく。広域の真庭でのそういうイメージが改めて確認できた。

## (保健所長)

人口減少とともに各医療機関からは、それに合わせて診療内容についても縮小傾向にならざるを得ないだろうとのご意見をいただいた。真庭の現状、将来的な方向

においても、真庭で医療を提供できていない症例や疾患については県南東部、県南西部で受け入れてもらうよう調整が必要である。

一方、先ほど説明したように（議題（1）資料12ページ）、県南東部の岡山市では今後さらに手術症例数が増えていくと推測されている。岡山市内の地元住民から発生する手術症例数も増える状況の中で、真庭地域の患者さんに対しても安定して十分な急性期の医療を提供してもらえるような仕組みと体制を県全体で作っていかねばならない。大きな課題である。

今回、2025年における地域医療構想における真庭地域の入院医療提供の一つの形というものが確定したと思うので、真庭保健所としてもこれらを県全体の地域医療構想調整会議に持ち帰り、調整をしていく責任があると感じている。

（議長）

医療機関同士の連携には、真庭圏域での連携と県内全体での広域の連携がある。重症者の場合には、県南の大きい病院や津山中央病院に紹介することになるが、病状が落ち着いたら逆紹介をぜひお願いしたい。地域医療と病院の存続にも関連してくる。

これから大事なものは、規模と機能の適正化、そして、周りの病院と連携し役割分担し、戦わない仕組みづくりである無敵化。将来的には連携から統合の時代が来ると思っている。そういう持続可能な、医療経営と地域医療が成り立つ時代を見据え、近くの病院、医療機関同士が信頼を置き、高めていくというのは非常に重要である。戦っているとどちらかが淘汰される可能性すらあるので、そうならない仕組みを地域としても作っていく必要がある。

（岡山県老人保健施設協会）

もう何十年も前から真庭は日本の未来の姿であるというのは、介護においても同じである。高齢化率40%ということで考えると、真庭が日本の未来を示しているということはずっと実感している。介護においても大変厳しい状況が続いている。介護事業所がどんどん閉鎖していかざるを得ない状況、介護サービスを提供できない状況というのが真庭では起こっている。それを含めて、今後、医療構想が適切に検討されることを願う。

（全国健康保険協会岡山支部）

岡山は医療機関数も多く、病床数の多い大きな医療機関が複数あることから医療機関にかかりやすい環境であるという認識だったが、真庭地域の医療圏は非常に厳しいものだということをお聞き改めて認識した。

（岡山県看護協会真庭支部）

真庭地域の看護師は約半数が50歳以上である。現役で働いている60歳以上の看護師も複数いる。当院にも70歳でも働いていただいている看護師がいるが、あと何年、同じ状態で勤務ができるのかと不安である。

子育て世代には子育てを頑張ってもらいたいが、夜勤免除があるなどで、どうしても40歳以上の看護師に負担が来ているように思う。働き方も以前と異なり、60歳でもそれまでと同じように働かないとやっていけない状況で、疲労感が非常に高まっているという現状である。

看護職員の確保率に関する岡山県のデータによると、他の圏域は100%を超えて確保できているが、真庭市は確保率約41.7%と非常に低い。原因については分析しないと分からないが、魅力、周りの環境なども大きく関係しているのではないかと

と同じようにしていたのでは看護職は不足するだろう。真庭の医療を確保していくため、真庭市全体での検討が必要だとつくづく思う。

(真庭市医師会)

看護師の高齢化という問題もあるが、真庭に残っている看護師の多くはやはり落合高校、真庭高校出身である。真庭出身の真庭高校で看護を学んだ人が残ってくれるのが、率としては一番高いのではないか。それが存続の危機にあるというのは、真庭の医療としては非常に危機的な状態である。

夜間の救急について、レントゲンも含め、検査に対応できる医療機関リストを出してもらってはどうかと市医師会でも意見が出た。夜間救急体制については、南部、中部で協力するのか、あるいは真庭市全体でそういった情報を通じて確保していくのかも含め考えていかなければならない。

(議長)

金田病院と落合病院の連携した取組みとして、数年前から日当直医師の診療科情報をお互いに交換していたが、落合病院が事務局となり全病院で相互に情報交換を行うようになり、今年7月からは、市医師会が事務局となって、毎月、情報提供を希望する真庭圏域の約20医療機関に対し、真庭圏域の全一般病院の診療時間外の医師の診療科情報を提供する仕組みができた。また、市医師会から、関係消防(真庭、津山、岡山北、新見)にも自主的に情報提供している。

(岡山県薬剤師会真庭支部)

昨今、医薬品の供給不足ということで、なかなか改善される見込みがないような状況であるが、日本薬剤師会としても、限られた資源を地域医療に有効かつ適切に活用できるよう、薬局間、他職種間での連携を深めるような方針であり、在庫の共有、住民の方への情報提供なども含め、アクションリストとして示しているところである。今後この地域は薬剤師、薬局とも不足すると思われ、連携が大切だと思い頑張っている。

(岡山県栄養士会真庭支部)

病院給食に携わっているが、将来、今と同じような給食サービスを提供できるとは思えない。今は結構きめ細かい個人対応をしているが、自分が将来、高齢者になったときに同じサービスを受けられるのだろうかと思う。共存型サービスのようなものを充実させ、不安の少ない将来になってほしい。

(真庭市民生委員児童委員協議会)

相当覚悟をしている話ではあったが、本日、各医療機関の話聞いて、「ここまで来たか」というのが実感だ。地域で最後まで住み続けられるよう、みんなでみんなを見守っていく、みんなで見ていくというのを、本当にどのように作っていくかとひしひしと考えている。今後の対応も、みんなで真剣に本当に命がけで考えていかなければならない。

(真庭市消防本部)

救急搬送に関しては、ここ3、4年、毎年、「去年の救急件数は過去最高だった」と言っている状況。今年も過去最高だった昨年を今、100件弱だが上回っている。人口が減っている中で救急件数が毎年のように増えている。そして、軽症の率は少なく、中等症、重症が多い。そうした中で病床数が減っていくというのは、救急隊の

立場からすれば心配だという気持ちで本日のお話を聞いていた。救急隊も、患者さんを搬送できる病院が決まったときはホッとするという話をよく聞くので、それを本日は実感した。

(議長)

当院への救急車のうち約2割は津山消防から受け入れている。こちらからは津山中央に重症者をお願いしているが、重症者が津山中央に集まりすぎているのではなく、中等症、軽症まで搬送されてしまうためパンクする。中等症、軽症は広域で見えていく仕組みづくりが必要ではないか。

(委員(病院))

ここ近年、津山中央の救急応需率は下がっているが、実は応需している件数は下がっていない。発生件数が非常に増えており、受けきれないという状況である。

(真庭歯科医師会)

今、歯科では、衛生士、技工士などのコ・デンタル不足が一番の問題であり喫緊の課題であるが、具体的な案が出ず、様々な面で苦労している。

休日の救急対応については、歯科医師会では当直医という形ではなく、各先生方が自院の患者さんを見ようということで対応している。

将来的には、真庭圏域の現在稼働している15歯科診療所のうち約4割が経営者不足に陥る可能性があるのではないかと考えており、これらの問題も含め、今後検討していきたい。

(議長)

近くの病院、医療機関との連携、真庭での連携、津山等を含めた美作地区での連携、そして全県での重症者を含めた連携、そういう様々な連携の形がある、それが大事なこと。

レゴブロック型からジグソーパズル型になっていくことが、地域医療が存続し、病院の経営も成り立つ仕組み、未来が見える方法だと。真庭は時代変化の最前線である。厳しい現実を受け止めながら、一緒に持続可能な仕組みづくりに努めていきたい。

(4) その他

- ・2040年に向けた「新たな地域医療構想」について(真庭保健所長から資料に従って説明)

### 3 閉会

(池田副議長挨拶)

2025年は地域医療構想の仕上げの年とのことだが、高齢者医療が増加することは何十年も前から想定されており、人口減少に従い、病床は収束してきた。

この真庭の地が存続していくためにも医療は欠かせない。今後とも本当に各医療機関、大変なところだと思うが、よろしく願いたい。

医師もいないが、医療スタッフがいない。医療スタッフに安心して真庭に住んでもらうためにも、医療機関がしっかりしなければならない。今後は2040年に向けて外来医療、介護のことも考えた地域医療構想を検討するとのことである。よろしく願う。